NIE実践報告

1．タイトル：世論とマスコミの関係を考える

2．学校名

鹿児島県垂水市立協和中学校

3．実践者名（代表者名）

園山　公平

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　20人

6．単元（本時の学習課題）名

世論とマスコミの関係を考える

7．目標（狙い）

世論(国民の意見)を報道する新聞記事が、世論を形成することにつながる恐れがあることを認識し、メディアを批判的に読み取ることができる。

8．評価の視点

世論とマスコミの機能を理解することができたか。
新聞記事をもとに、マスコミの報道が世論の形成につながる恐れがあることを理解することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「暮らしとつながる政治」(教科書教材:教育出版)　14時間
本時「国民の声に耳をかたむける－世論とマスコミ－」(4/14)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(学習展開)
(1)衆議院議員選挙前のトレンド調査の記事を読み、現政権への国民の支持率の推移を読み取り、次回のトレンド調査での支持率を予想する。
(2)世論・マスコミなど、語句の意味を解説する。
(3)民主主義における「報道の自由」と世論を形成する可能性について考える。
(4)トレンド調査の結果を提示し、さらに衆議院議員選挙での与党と野党の獲得議席数の予想を立てる。
(留意点)
・世論調査の時期にあった政治の動きを確認しながら進める。
・事後の活動として、衆議院議員選挙の結果を新聞で確認し、自分の予想との比較を行い、感想を書く。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

時宜を得た教材だったため、生徒は関心を持って取り組んでいた。その後、夏休みの課題として衆議院議員選挙のレポートや新聞スクラップに取り組んだ生徒も多く、「メディアの情報を鵜呑みにしてはいけない」と感想を書く生徒もいた。

12．成果と課題

メディアの情報をそのまま受け取ることで世論が形成される恐れがあることを実感することができた。また、政治の動きや選挙などに関心を持ち、その後も新聞を読む生徒が増えた。今後さらに、指導内容と社会の動きをリンクさせ、新聞記事だけでなくテレビやインターネットなど、様々なメディアを比較するなど、メディアリテラシーを高める授業を展開させていきたい。